

味噌は誰のもの? 何をするにも向かない日が続きました。でも、あたりが足踏みしたり、つんもぐっている時、味噌の仕込みができました。

味噌作りのお終いは、味噌だるが空になった時、というわけですが、始まりは、どうもはっきりしません。私たちは、あきるほど続けられてきた味噌作りの最終幕に参加したのですが、主役たる大豆、米は、今年の2月23日に参加する用意をいつから始めたのか、よくわからないのです。ちなみに、その時かまどにくべられた薪は、鶏小屋のある雑木林の倒木で、樹齢は40年ほどのものでしょうか、栗とヒノキでした。

完熟種子を食用とする穀類は、種取りを自前ですることが多いのですが、収穫イコール種取りなので、その生とか死は、どこからどこまでという区切りもなく、途切れることがないのです。

一年生と言われる植物たちは、はかなげでいて実際は、分身の術、変わり身の術で抜け殻を残しては、不死身であり続けます。大豆と人の関係も、人が、則を超えずにおれば、末永く続くはずです。大豆、穀類に限らず、動植物の繁栄に一役買って、オイシイところをいただくのが我らの仕事です。

しかしながら、日本の大豆自給率は5~6%程度、輸入大豆の75%は遺伝子組み換え大豆です。

TPP(環太平洋パートナーシップ協定)の問題では、関税撤廃による内外の価格差で国内農業が圧迫されるという側面が強調されるようですが、ISD条項というのが「くせもの」です。日本の国内法(表示や分別に関して義務付ける)が貿易の障壁とみなされる場合、国民の意志に関わらず、国際機関に提訴され、賠償を請求される可能性もあります。米国とFTA(主に2国間で結ぶ自由貿易協定。やはり、関税や非関税障壁が撤廃される)を結ぶカナダや韓国は、実際に米国の企業に訴えられ敗訴しています。このISD条項を突破口に、多国籍企業の遺伝子組み換え作物が、表示なしで、日本の食卓を席けんすることもあります。また、すでに日本では、70種ほどの遺伝子組み換え作物の商業栽培が承認されてもいるのです。



政治は、当たり前のように、売り渡し、裏切るのですが、生産者は痩せても枯れても組まないよう、祈ります。元も子もない不死の流れといっても、パートナーたる人間が、放射能やTPPを投げ込めば、あやういものです。(晃 2月25日記~写真は、近所の低農薬米で糶を作っているところ。丁寧に、蒸し米に、こうじ菌をまぶしていきます。)

はだしの人 12月で寒さの底は割った、と思っていた1月から、まさかの寒さ・強風の2月となっております。そんな中、何重にも着ぶくれして畑に出ると、地主のおばあちゃんが、はだしにサンダル突っかけて、孫のお下がりのジャージのズボンにセーター姿でその辺の草をひっかいているのです。鍛え方が足りない私です。そして、年末からポリトンネルの中に作付けている春野菜は、まだまだ身を縮めています。冬野菜たちは、地形を変えるばかりに吹き付ける風にも負けず、土ぼこりにまみれながらも、命をまっとうしようとしています。どうか上手にバトンタッチできますようにと、願っています。(泰子 2月27日)

